本　会　会　報

学会だより

◇会員の栄誉

松岡信会員が平成28年度日本農学賞・読売農学賞を受賞

本会会員松岡信氏は，平成28年1月22日，「植物成長ホルモン・ジベレリンの合成・受容機構の解明およびそれを用いた分子育種」の業績により，日本農学会から平成28年度「日本農学会賞」を授与されることが決定しました．日本農学会賞は，農学上顕著な業績を挙げたものに対して日本農学会から贈られるものです．授与式は平成28年4月5日（火）午前10時より東京大学山上会館において行われます．

◇一般社団法人日本育種学会代議員選挙結果のご報告

代議員選挙によって，平成28・29年度の選出代議員が決定いたしました．

地区（代議員定数）：代議員氏名（敬称略）

北海道（4）：貴島祐治・久保友彦・佐藤裕・三浦秀穂

東北（5）：石川隆二・岡崎桂一・北柴大泰・高畑義人・西尾剛

関東1（7）：大澤良・久保山勉・田中淳一・田中剛・半田裕一・松本隆・山本敏央

関東2（3）：木庭卓人・佐々英徳・中村郁郎

関東3（5）：伊藤純一・金勝一樹・桧原健一郎・平野博之・吉田薫

中部（5）：掛田克行・小林麻子・富田因則・土井一行・村井耕二

近畿（4）：石井尊生・齊藤大樹・清水顕史・築山拓司

中国・四国（3）：草場信・辻本壽・前川雅彦

九州・沖縄（4）：穴井豊昭・甲斐浩臣・田浦悟・安井秀

◇一般社団法人日本育種学会会長・副会長意向投票結果のご報告

代議員（平成26・27年度）ならびに新しく選出された代議員（平成28・29年度）による会長選出のための意向投票と副会長選出のための意向投票の結果をお知らせいたします．会長意向投票の最多得票者は堤伸浩氏（東京大学），副会長意向投票の最多得票者は奥本裕氏（京都大学）でした．両氏は共に，一般社団法人日本育種学会運営内規で定められている有効投票数の1/3以上の票を獲得されており，既にご本人による承諾も頂いておりますので，両氏が平成28・29年度の会長暫定候補者および次期副会長暫定候補者に決定いたしました．一般社団法人日本育種学会の定時代議員会（社員総会）の決議により選任されます．

◇第128回講演会日本育種学会優秀発表賞報告

2015年日本育種学会秋季大会（第128回講演会）における日本育種学会優秀発表賞が下記の11課題に決定されました．

講演番号 P080：Oryza longistaminata 地下茎の重力屈性を制御する因子の探索　☆上原奏子・ドミニカス ジョバノ・近藤宏野・芦苅基行（1. 名古屋大学生物機能開発利用研究センター）

講演番号 206：GWASによる花粉数を制御する遺伝子の同定と解析　☆角井宏行[1]・土松隆志[1,2]・山崎美紗子[1]・Marona Cindy[3]・Meng Dazhe[2,4]・金岡雅浩[5]・Stadler Thomas[6]・Lenhard Mihael[3]・Nordborg Magnus[2,4]・清水健太郎[1]（1. University of Zurich, 2. Gregor Mendel Inst., 3. Univ. Potsdam, 4. Univ. Southern California, 5. 名古屋大学, 6. ETH Zurich）

講演番号 309：*heracles* は，巨大胚変異体（*ge*）を半優性に抑圧する　☆水野泉・伊藤純一・桧原健一郎（東大院農学生命科学）

講演番号 103：ゲノミックセレクションを用いた多収性普通ソバ系統の育成　☆原尚資[1]・矢部志央理[2]・上野まりこ[3]・榎宏征[4]・木村達郎[4]・西村哲[4]・安井康夫[3]・岩田洋佳[5]・大澤良[1]（1. 筑波大・院生命環境科学，2. 農研機構中央農研，3. 京都大・院農，4. トヨタ自動車（株）FP部バイオ・ラボ，5. 東京大・院農学生命科学）

講演番号 P001：遺伝子ベース作物モデルで未知環境における後代集団の出穂を予測する　☆青池亨[1]・渡辺真哉[1]・小野木章雄[1]・出田収[2]・吉岡拓磨[3]・江花薫子[4]・山崎将紀[3]・中川博視[5]・岩田洋佳[1]（1. 東京大・院農学生命科学，2. 農研機構・近中四農研セ，3. 神戸大院附属食資源センター, 4. 生物研, 5. 農研機構・中央農研）

講演番号 302：コムギ Vrs1 相同遺伝子は稔実小花数を決定する　☆佐久間俊[1,2]・小川泰一[2]・田切明美[2]・金森裕之[2]・呉健忠[2]・Pourkheirandish Mohammad[2]・小松田隆夫[2]（1. 横浜市立大学木原生物学研究所，2. 農業生物資源研究所）

講演番号 508：オオムギの形質転換に必要なゲノム領域の同定　☆久野裕・元井由加・佐藤和広（岡山大植物研）

講演番号 117：ダイズ非メンデル遺伝ステイグリーン遺伝子の単離　☆上妻馨梨[1,2]・佐藤豊[3]・奥崎文子[3,4]・増田優[1]・福岡浩之[5]・金澤章[6]・田部井豊[3]・草場信[1,2]（1. 広島大院理, 2. CREST, 3. 農業生物資源研, 4. 玉川大・農，5. 農研機構野菜茶研，6. 北大・院・農）

講演番号 611：東北地方北部のイネ栽培品種に重要な出穂期関連遺伝子の同定　☆野々上慈徳[1,2]・高木宏樹[1]・八重樫弘樹[1]・菊池秀子[1]・夏目俊[1]・宇津志博恵[1]・小笠原由美子[1]・吉津祐貴[2]・横井修司[2]・寺内良平[1]・阿

部陽[1]（1. 岩手生工研，2. 岩手大・院連合農学）

講演番号 620：栽培イネの有用変異発掘を促進する 12 種類の染色体断片置換系統群の作出　☆永田和史[1]・野々上慈徳[1,2,3]・溝淵律子[1]・小野望[3]・柴谷多恵子[1]・江花薫子[1]・松原一樹[1,4]・小木曽映里[1]・七夕高也[1,5]・杉本和彦[1]・田口文緒[1]・米丸淳一[1]・宇賀優作[1]・福田篤徳[1]・上田忠正[1]・山本伸一[1]・山内歌子[1]・高井俊之[1,4]・一家崇志[1,6]・近藤勝彦[1,7]・星野友紀[1,8]・山本英司[1,9]・安達俊輔[1,10]・孫健[1]・久家徳之[1]・木富悠花[1]・崔善熹[1]・飯島健[1]・長崎英樹[1,11]・正村純彦[1]・水林達実[1]・北澤則之[1]・堀清純[1]・安藤露[1]・山本敏央[1]・福岡修一[1]・矢野昌裕[1,4]（1. 生物研，2. 現・岩手生工研，3. STAFF 研，4. 現・農研機構作物研，5. 現・理研，6. 現・静岡大，7. 現・国際農研，8. 現・山形大，9. 現・農研機構野茶研，10. 現・東京農工大，11. 現・遺伝研）

講演番号 P048：催涙成分合成酵素遺伝子を標的としたタマネギのゲノム編集　☆真壁壮[1]・井川智子[1]・今井真介[2]・鴨井享宏[2]・中村郁郎[1]（1. 千葉大・院・園芸，2. ハウス食品グループ本社（株））

◇地域談話会だより

〈北海道地区〉

2015 年 12 月 5 日（土）に北海道大学農学部において，日本育種学会・日本作物学会北海道談話会の平成 27 年度の年次講演会，総会およびシンポジウムが開催された．一般講演において，本談話会の新たな試みとして若手優秀発表賞が設けられ，第 1 回の受賞者には講演番号：105 足利奈奈（道総研北見農試）と講演番号：210 竹島亮馬（北大大学院農学院）の 2 名が選定され，総会において表彰された．一般公演およびシンポジウムの詳細は以下の通りである．

◎平成 27 年度一般講演（57 演題）

101　栽植密度を用いた大気 CO_2 上昇下で高い生産性を示すコムギ品種の選抜方法―北海道の春播性コムギの疎植適応における品種間差異（2 ヶ年の結果）―．○村田容子[1]・竹林佳南[1]・義平大樹[1]・下野裕之[2]（1. 酪農学園大，2. 岩手大農学研究科）

102　栽植密度を用いた大気 CO_2 上昇下で高い生産性を示すコムギ品種の選抜方法―過去 50 年間に北海道で育成された秋播性コムギ品種の疎植適応における品種間差異―．○竹林佳南[1]・村田容子[1]・義平大樹[1]・下野裕之[2]（1. 酪農学園大，2. 岩手大農学研究科）

103　肥効調節型窒素肥料の雪上起生期前施肥が秋播コムギ「きたほなみ」の生育・収量に及ぼす影響．○渡邊貴哉[1]・栗原一博[2]・義平大樹[1]（1. 酪農学園大，2. JNC（株））

104　網走市における秋播き小麦品種「きたほなみ」への少量多回分肥法による増収効果について．○丸橋隆弘・笠島真也・吉田穂積・伊藤博武（東京農大院生物産業学研究科）

105　日長反応性遺伝子 *Ppd-D1* が春まき小麦の安定多収性に及ぼす影響．○足利奈奈[1]・山下陽子[2]・来嶋正朋[1]・藤田正平[2]・相馬潤[2]・小澤徹[2]・松中仁[3]・加藤鎌司[4]・神野裕信[1]（1. 道総研北見農試，2. 道総研中央農試，3. 九州沖縄農研，4. 岡山大）

106　「Madsen」のコムギ縞萎縮病抵抗性 QTL を導入した秋まき小麦「きたほなみ」の準同質遺伝子系統の農業特性．○粕谷雅志[1]・鈴木孝子[2]・神野裕信[1]・大西志全[1]・其田達也[1]・吉村康弘[2]（1. 道総研北見農試，2. 道総研中央農試）

107　秋播性コムギ品種「きたほなみ」の多収要因に関する研究．○山田翔太[1]・笠島真也[2]・伊藤博武[2]・神野裕信[3]・大西志全[3]（1. 東京農大院生物産業学研究科，2. 東京農大生物産業学部，3. 道総研北見農試）

108　秋まき小麦の穂発芽性“極難”系統の改良．○其田達也[1]・佐藤三佳子[2]・西村努[3]・菅原彰[4]・大西志全[1]・粕谷雅志[1]・神野裕信[1]（1. 道総研北見農試，2. 道総研中央農試，3. 道総研上川農試，4. 道総研十勝農試）

109　秋まき穂発芽性極難コムギにおける強種子休眠性の解析．○中根わかな[1]・西村努[2,3]・神野裕信[4]・森正彦[1]・三浦秀穂[1]（1. 帯畜大，2. 道総研上川農試，3. 岩手連大院農，4. 道総研北見農試）

110　スペルトコムギとパンコムギにおけるアーバスキュラー菌根形成率の遺伝的変異．○岡野なつみ・石田幹大・三浦秀穂・橋本靖・大西一光（帯畜大）

111　コムギ 4A 染色体上における芒抑制遺伝子座（*Hd* 座）近傍に検出された種子休眠性 QTL．○吉川光貴・曹良子・三浦秀穂・大西一光（帯畜大）

112　マラウイのポストハーベスト・ロス低減に向けたトウモロコシ“Local”品種利用の可能性．○半田望[1]・山澤知香[1]・河原田侑希[1]・Chandiona Munthali[2]・相内大吾[1]・谷昌幸[1]・小疇浩[1]・大西一光[1]・森正彦[1]（1. 帯畜大，2. Chitedze Research Station）

113　2 倍体バレイショ C×E マップ集団における早期肥大性と開花期までの積算受光量および光利用効率との関係．○西浦珠央[1]・成影沙紀[2]・林百々[2]・市川伸次[3]・岩間和人[1]（1. 北大院農，2. 北大農，3. 北大北方生物圏フィールド科学センター）

114　一塩基多型（SNP）を利用した日本産バレイショ品種の識別．○佐々木晴充・實友玲奈・保坂和良（帯畜大）

201　海外で育成されたテンサイ維持系統における *rf1* アレルの構造．○内山大輔・大神貴史・久保友彦（北大院農）

202　大雪山におけるエゾコザクラの葉緑体ゲノムの遺伝変異．○澤田円・我妻尚広・岡本吉弘（酪農学園大）

203　イネ穂ばらみ期の高温ストレスに対する品種間の耐性評価．○内山尭・石黒聖也・陳孫禄・貴島祐治（北大院農）

204　イネゲノムに内在するウイルス断片の自然選択圧

に関する解析．○山田加奈恵・斎藤希・陳孫禄・貴島祐治（北大農）

205　イネ小穂の護穎，副護穎に関する変異体の遺伝解析．○小矢崎慧・奈良有司・小谷まり・貴島祐治・高牟禮逸朗（北大院農）

206　慣行移植栽培と地下水位制御システム（FOEAS）を用いた乾田直播栽培における水稲品種「ななつぼし」の生育及び収量の比較．○大野星絵[1]・竹澤広基[1]・市川伸次[2]・角田貴敬[2]・内野紀彦[2]・岡田佳菜子[3]・岩間和人[1]（1．北大農，2．北大北方生物圏フィールド科学センター，3．拓殖大北海道短大）

207　根系構造に着目した北海道適応型多収イネの比較．○道満剛平•西村努•平山裕治•佐藤毅（道総研上川農試）

208　黄ダイズおよびその種皮着色突然変異体における種皮プロアントシアニジンの定量比較．○川田聡[1]・前多隼人[1]•山口直矢[2]•千田峰生[1]（1．弘前大農学生命，2．道総研十勝農試）

209　ダイズ低温裂開抵抗性に関与するQTLについての研究―準同質遺伝子系統を用いた種皮プロアントシアニジン蓄積の比較―．○山下一騎[1]•山口直矢[2]•川崎通夫[1]•千田峰生[1]（1．弘前大農学生命，2．道総研十勝農試）

210　ダイズの開花期に関わるJ連鎖群QTLのファインマッピングと候補遺伝子の解析．○竹島亮馬[1]•朱江慧[1]•山口直矢[2]•佐山貴司[3]•石本政男[3]•渡邊啓史[4]•孔凡江[5]•山田哲也[1]•阿部純[1]（1．北大院農，2．道総研十勝農試，3．生物研，4．佐賀大農，5．中国科学院東北地理学及び農業生態学研究所）

211　ダイズ品種「トヨハルカ」の耐倒伏性に関与する形質の同定―押倒し抵抗とその関連形質におけるトヨハルカとトヨムスメおよび耐倒伏性QTLの準同質遺伝子系統間の比較―．○北畠拓也[1]・義平大樹[1]・山口直矢[2]（1．酪農学園大，2．道総研十勝農試）

212　イオンビーム照射によって得られたダイズ突然変異系統における葉緑素欠乏と開花期変異．○御厨駿[1]・中嶋健太[1]・長谷純宏[2]・山田哲也[1]・阿部純[1]・金澤章[1]（1．北大院農，2．日本原子力研究開発機構）

213　アズキ品種「しゅまり」が有する開花の長日不感受性に関与する遺伝子座の特定．○山本博規[1]・堀内優貴[2]・小倉玲奈[3]・坂井寛章[4]・佐藤仁[2]・加藤清明[1]（1．帯畜大，2．道総研十勝農試，3．道総研中央農試，4．生物研）

301　バレイショの有機栽培と慣行栽培における葉の厚さの差異が乾物生産に及ぼす影響．○竹村紘[1]・鈴木若菜[2]・市川伸次[3]・岩間和人[1]（1．北大院農，2．北大農，3．北大北方生物圏フィールド科学センター）

302　北海道の気象要因に基づくバレイショ潜在収量のモデル解析．出口哲久[1]・○岩間和人[2]・Anton Haverkort[3]（1．北海道教育大札幌校，2．北大院農，3．Wageningen UR）

303　ジベレリン処理したバレイショ・ミニチューバーの圃場での生育と収量．○不破秀明[1]・天野克幸[1]・岩間和人[2]（1．種苗管理センター北海道中央農場後志分場，2．北大院農）

304　小豆遺伝資源「黒小豆（岡山）」由来の土壌病害抵抗性．○小倉玲奈[1]・鴻坂扶美子[2]・島田尚典[2]（1．道総研中央農試，2．道総研十勝農試）

305　北海道オホーツク地方におけるアズキ早生品種の成長解析．○神田奈緒[1]・笠島真也[1]・伊藤博武[1]・堀内優貴[2]・佐藤仁[2]（1．東京農大生物産業学部，2．道総研十勝農試）

306　「PKB硫カル」（ホウ素およびモリブデン入り肥料）の施用がダイズ品種「ユキホマレ」の生育および収量に及ぼす影響．○湯本健太[1]・義平大樹[1]・秋友勝[2]・土井康一[3]（1．酪農学園大，2．東罐マテリアル•テクノロジー（株），3．片倉コープアグリ（株））

307　高密度条件下における長花梗QTLを有したダイズ品種「トヨハルカ」の準同質遺伝子系統の収量および収量関連形質．○古熊奎輔[1]・義平大樹[1]・山口直矢[2]・小林聡[2]・佐山貴司[3]・石本政男[3]（1．酪農学園大，2．道総研十勝農試，3．生物研）

308　ダイズの栽植密度に対する分枝可塑性に関する簡易評価―摘心による分枝伸長の品種間差異を利用した方法―．○鈴木暖佳[1]・義平大樹[1]・白岩立彦[2]（1．酪農学園大，2．京大院農）

309　広畦による疎植条件が分枝可塑性の異なるダイズ品種の収量に及ぼす影響．○北吉大喜[1]・尾崎徳宏[1]・義平大樹[1]・白岩立彦[2]（1．酪農学園大，2．京大院農）

310　分枝可塑性の異なるダイズ品種における欠株が隣接株の収量および関連形質に及ぼす影響．○尾崎徳宏[1]・北吉大喜[1]・義平大樹[1]・白岩立彦[2]（1．酪農学園大，2．京大院農）

311　ダイズの栽植密度に対する分枝可塑性に及ぼす茎伸育性および早晩性遺伝子の効果．○義平大樹[1]・鈴木暖佳[1]・白岩立彦[2]・石本政男[3]（1．酪農学園大，2．京大院農，3．生物研）

312　納豆加工適性に優れる大豆系統を少量の煮豆から推定可能な選抜システムの確立．○岩橋雅夫[1]・池田千亜紀[1]・野口友嗣[2]・長谷川裕正[2]・中川力夫[2]・岡本和之[1]（1．茨城県農業総合センター生物工学研究所，2．茨城県工業技術センター）

313　SCN抵抗性遺伝子 *rhg1* に関する分離のゆがみ．○鈴木千賀・山下陽子・鈴木孝子（道総研中央農試）

314　豆乳を用いた簡易ショ糖含量評価と大豆育種への利用．○小林聡[1]・三好智明[1]・川原美香[2]・四宮紀之[2]・小谷野茂和[3]・中道浩司[4]（1．道総研十勝農試，2．公益財団法人とかち財団，3．北海道原子力環境センター，4．道総研中央農試）

315　海外ダイズ品種の開花期耐冷性スクリーニング．○山口直矢[1]•大西志全[2]•三好智明[1]（1．道総研十勝農試，2．道総研北見農試）

401　子実用トウモロコシに対する千鳥播および狭畦栽培が収量に及ぼす影響―狭畦千鳥栽培を含めた増収効果の栽植密度反応―．○一関悠太[1]・宋粮[1]・義平大樹[1]・佐藤智宏[2]（1．酪農学園大，2．パイオニアハイブレッドジャパン）

402　子実用トウモロコシに対する千鳥播および狭畦栽培が収量に及ぼす影響―小面積試験区における増収効果の栽植密度反応に関する推定―．○宋粮[1]・一関悠太[1]・義平大樹[1]・佐藤智宏[2]（1．酪農学園大，2．パイオニアハイブレッドジャパン）

403　子実用トウモロコシに対する千鳥播および狭畦栽培が収量に及ぼす影響―長沼町の実規模試験における増収効果とその栽植密度反応―．○土屋恭平[1]・宋粮[1]・義平大樹[1]・小川健太[1]・佐藤智宏[2]・柳原孝二[3]・照井英樹[4]（1．酪農学園大, 2．パイオニアハイブレッドジャパン，3．有限会社柳原農場，4．IDEC）

404　飼料用トウモロコシにおける雄穂発達期低温感受性の遺伝様式に関する研究（予報）．○林拓[1]・佐藤尚[2]・岩間和人[3]（1．道総研根釧農試, 2．北農研, 3．北大院農）

405　北海道における高温登熟不良が発生する可能性について．○保田浩・梶亮太・松葉修一・池ヶ谷智仁（北農研）

406　北海道イネの由来．○藤野賢治・小原真理（北農研）

407　イネの開花期，開花期間およびその密度反応の遺伝解析．○伊藤勇樹（酪農学園大）

408　北海道における畑作物の生産性向上 1．十勝地方の小麦収量とその変動要因．○柳沢朗（道総研十勝農試）

409　北見農試の作況調査からみた 2015 年の秋まき小麦多収要因．○神野裕信・大西志全・粕谷雅志・其田達也（道総研北見農試）

410　種皮色候補遺伝子を白粒小麦に導入した遺伝子組換え赤粒系統の作出．○栗原志保[1]・安倍史高[2]（1．北農研，2．作物研）

411　コムギ 4B 染色体上の種子形と種子サイズに関わる QTL のマッピング．○服部眞弥・徳井真由美・曹良子・大西一光・三浦秀穂（帯畜大）

412　登熟環境に対応した秋まき穂発芽性極難コムギの種子休眠性評価．○西村努[1,2]・其田達也[1]・佐藤三佳子[1,3]・神野裕信[1]（1．道総研北見農試, 2．現：道総研上川農試，3．現：道総研中央農試）

413　貯蔵期間と老化処理が主要農作物種子の発芽率へ及ぼす影響．○浅山聡[1]・鈴木和織[2]・荒木和哉[2]（1．道総研北見農試，2．道総研中央農試）

414　テンサイの分離世代における当年抽苔の変異．○黒田洋輔・高橋宙之・岡崎和之・松平洋明・田口和憲（北農研）

415　テンサイ育種温室土壌の低濃度エタノール還元土壌消毒の効果．○高橋宙之・上田重文・田口和憲・岡崎和之・黒田洋輔・松平洋明（北農研）

◎平成 27 年度シンポジウム『北海道におけるダイズの品種，栽培，利用の現状と将来』

Ⅰ．「北海道産大豆の流通実態」長谷川幸男（ホクレン）

Ⅱ．「道産大豆の加工・利用面における将来への提言」郷和平（（株）菊田食品）

Ⅲ．品種開発

(1)「道総研における大豆育種」三好智明（道総研十勝農試）

(2)「難裂莢遺伝子の単離と機能解明」藤野介延（北大院農）

(3)「ダイズシストセンチュウ対策としての抵抗性利用の現状と今後」眞岡哲夫（北農研）

Ⅳ．「省力化に向けた狭畦密植栽培」藤田正平（道総研中央農試）

Ⅴ．「道総研における大豆の品質研究とその成果」谷藤健（道総研食品加工研究センター）

Ⅵ．総合討論　司会：島田尚典（道総研十勝農試）

〈中国地区〉

中国地域育種談話会報告

2015 年 12 月 19 日（土）・20 日（日）に岡山大学農学部において第 7 回中国地域育種談話会が開催された．参加者は 69 名，特別講演 2 題，一般口頭発表 8 題，ポスター発表 27 題であった．また，優秀発表賞が 5 名に授与された．優秀発表賞受賞は次の通り：山谷浩史（O-1），大林祝（P-02），白井一正（O-3），坂本和貴（P-13），増田春香（P-22）．

特別講演Ⅰ

「水稲品種「朝日」における脱粒性の改良」

大久保和男（岡山県農林水産総合センター農業研究所）

特別講演Ⅱ

「異形花型自家不和合性の制御因子の探索」

牛島幸一郎（岡山大学大学院環境生命科学研究科）

一般口頭発表

O-1：イネ stay-green 突然変異の原因遺伝子の単離と機能解析

○山谷浩史[1]・中野道治[1]・上妻馨梨[1,5]・高見常明[2]・加藤祐介[2]・阿部知子[3]・林依子[3]・西村実[4]・坂本亘[2]・草場信[1,5]（1．広島大理, 2．岡山大農, 3．理研仁科センター，4．新潟大農，5．CREST）

O-2：形態形成に関わる新規の短い遺伝子にコードされるペプチドの機能解析

○金有王[1]・樋口美栄子[2]・大林祝[1]・岡本昌憲[3]・清水みなみ[2]・吉積毅[2]・中南健太郎[2]・仁志蘭子[2]・篠崎一雄[2]・関原明[2]・松井南[2]・花田耕介[1]（1．九工大，2．理化学研究所，3．鳥取大乾地研）

O-3：遺伝子重複がもたらすシロイヌナズナ生態株間の二次代謝産物量の多様性
○白井一正[1]・中林亮[2]・松田史生[3]・岡本昌憲[4]・田中真帆[2]・藤本明洋[5]・清水みなみ[2]・篠崎一雄[2]・関原明[2]・斎藤和季[2]・花田耕介[1,2]（1. 九工大，2. 理研 CSRS，3. 阪大大学院情報科学研究科，4. 鳥取大乾地研，5. 理研 IMS）
O-4：カンボジア東部におけるウリ科遺伝資源探索の報告
○山下洋士[1]・Duong Thanh Thuy[1]・田中克典[2]・L. Seang[3]・加藤鎌司[1]（1. 岡山大院環境生命, 2. 弘前大人文, 3. カンボジア農業調査開発研）
O-5：中国西海省チベット高原におけるムギ類遺伝資源の収集
佐藤和広（岡山大植物研）
O-6：Insertion site polymorphisms of the *Stowaway* miniature Inverted-repeat transposable elements (MITEs) family infer different strata of evolutionary relationships in the *Triticum* - *Aegilops* complex
○ Benjamin Ewa Ubi[1,2], Yasir Serag Alnor Mohammed[1,3], Yuki Monden[4], Makoto Tahara[4], Hisashi Tsujimoto[1,*] (1. ALRC, Tottori Univ., 2. Ebonyi State U., Nigeria, 3. Agr. Res. Corp. Sudan, 4. Grad. Sch. Environ. Life Sci., Okayama U.)
O-7：早生デュラムコムギの育成～ F5 および F4 選抜系統における栽培性と品質
○馬場遼太[1]・丹野研一[1]・河原太八[2]・荒木英樹[1]・高橋肇[1]（1. 山口大学農学部，2. 京都大学農学研究科）
O-8：普通系小麦からデュラム小麦に導入した穂発芽抵抗性に関係する要因の種子休眠性への効果
○高田兼則[1]・船附稚子[1]・谷中美貴子[1]・大楠秀樹[2]（1. 農研機構・近農研，2. 日本製粉）

ポスター発表

P-01：Arabidopsis 系統で明らかとなった遺伝子重複の数百万年後に機能多様性が増強される現象
○ K. Hanada[1,2,3], A. Tezuka[1], Y. Nozawa[4], Y. Suzuki[5], S. Sugano[5], A.J. Nagano[6], M. Ito[5], S.-I. Morinaga[7] (1. Kyusyu Inst. Tech., 2. RIKEN, 3. CREST, 4. NIG, 5. Univ. Tokyo, 6. Kyoto Univ., 7. Nihon Univ.)
P-02：ブラシノステロイドのシグナル伝達を阻害する短いペプチドの機能解析
○大林祝[1]・吉積毅[2]・原口武士[3]・岡本昌憲[4]・樋口美栄子[2]・清水みなみ[2]・野元美佳[5]・多田安臣[5]・軸丸裕介[6]・神谷勇治[2]・篠崎一雄[2]・花田耕介[1,2]（1. 九工大・若手フロンティア，2. 理研・CSRS，3. 千葉大・院・理，4. 鳥取大・乾燥地研，5. 名古屋大・遺伝子実験施設，6. アジレントテクノロジー）
P-03：多数の系統樹作成による分子進化的解析手法の開発
○江副晃洋[1]・花田耕介[1]（1. 九州工業大）
P-04：植物の新規ホルモン様ペプチドのシグナル機構の解明にむけて
○鳥居怜平[1]・金有王[1]・樋口美栄子[2]・清水みなみ[2]・深尾陽一朗[3]・花田耕介[1]（1. 九州工業大，2. 理研・CSRS，3. 立命館大学生命科学部生命情報工学科）
P-05：フィトクロムはシロイヌナズナにおいて光応答を媒介するために選択的スプライシングを制御する
○能勢貴行[1]・白井一正[1]・F. Christian[2]・松下智直[3]・花田耕介[1]（1. 九州工業大，2. Lausanne U.，3. 九州大）
P-06：四倍性コムギ遺伝資源における子実の硬軟質性の変異に関する研究
○岡崎大[1]・丹野研一[1]・鎌田英一郎[2]・荒木英樹[1]・高橋肇[1]・高田兼則[3]・山根京子[4]・河原太八[5]（1. 山口大学農学部，2. 鳥取大学連合農学研究科，3. 近畿中国四国農業研究センター，4. 岐阜大学応用生物科学部，5. 京都大学農学研究科）
P-07：農耕起源の解明～ハサンケイフ・ホユック遺跡で農耕は始まっていたのか
○山﨑樹里[1]・丹野研一[1]・三宅裕[2]・前田修[2]（1. 山口大学農学部，2. 筑波大学人文社会学研究科）
P-08：青色光による葉老化制御機構解析
○下野起将[1]・小塚俊明[1]・井上良平[1]・草場信[1,2]（1. 広島大理，2. CREST)
P-09：暗黒誘導性老化における ACC 合成酵素アイソフォームの機能解析
○永尾千晶[1]・上田浩晶[1]・井上良平[1]・草場信[1,2]（1. 広島大理，2. CREST）
P-10：アジアのパンコムギにおけるデンプン合成酵素遺伝子の遺伝的多様性とタンパク質発現量解析
○田中悠[1]・田中裕之[2]（1. 鳥取大院農，2. 鳥取大農）
P-11：小麦粉生地を強くする *Thinopyrum elongatum* 由来高分子量グルテニンサブユニット遺伝子をもつ 1EL 染色体部分領域のパンコムギへの導入
○赤松紗也加・田中裕之（鳥取大農）
P-12：ABA 受容体を利用したコムギの乾燥ストレス耐性の向上
○妻鹿良亮[1]・安倍史高[2]・花田耕介[3]・岡本昌憲[1,4]（1. 鳥取大学・乾燥地研，2. 農研機構・作物研，3. 九州工業大学・若手研究者フロンティア研究アカデミー，4. 科学技術振興機構さきがけ）
P-13：オオムギ網斑病抵抗性遺伝子のマッピング
○坂本和貴・久野裕・佐藤和広（岡山大植物研）
P-14：オオムギ α- アミラーゼの品種変異と関連解析
○松本紗都子[1]・久野裕[1]・木原誠[2]・周天甦[2]・佐藤和広[1]（1. 岡山大植物研, 2. サッポロビールバイオ研究開発部）
P-15：NGS を利用したレトロトランスポゾン挿入多型に基づくシイタケ（*Lentinula edodes*）品種判定マーカーの開発
○湯浅まり恵・門田有希・田原誠（岡山大院・環境生命科学）

P-16：サツマイモネコブセンチュウ抵抗性遺伝子の同定に向けた連鎖地図の構築
◯岸本和樹[1]・笹井瑠美[2]・門田有希[1]・岡田吉弘[3]・田淵宏朗[3]・小林晃[3]・謝花治[4]・翁長彰子[4]・磯部祥子[5]・平川英樹[5]・白澤健太[5]・田原誠[1]（1. 岡山大・院環境生命科学，2. 岡山大農，3. 九沖農研，4. 沖縄農研，5. かずさ DNA 研究所）
P-17：サツマイモネコブセンチュウ感染・非感染土壌における 16S メタゲノム解析
◯中島陽佳[1]・門田有希[1]・蔵之内利和[2]・田原誠[1]（1. 岡山大院・環境生命科学，2. 農研機構・作物研）
P-18：サツマイモ立枯病抵抗性遺伝子の同定に向けた連鎖地図の作成および QTL 解析
◯相川祥胤[1]・今井佑美[1,2]・門田有希[1]・岡田吉弘[3]・謝花治[4]・翁長彰子[4]・田淵宏朗[3]・小林晃[3]・田原誠[1]（1. 岡山大院・環境生命科学，2. 鳥取大乾地研，3. 九沖農研，4. 沖縄農研）
P-19：サツマイモネコブセンチュウ（*Meloidogyne incognita*）抵抗性遺伝子の同定に向けた連鎖解析
◯笹井瑠美[1]・岸本和樹[2]・門田有希[2]・岡田吉弘[3]・田淵宏朗[3]・小林晃[3]・謝花治[4]・翁長彰子[4]・磯部祥子[5]・平川英樹[5]・白澤健太[5]・田原誠[2]（1. 岡山大農，2. 岡山大院・環境生命科学，3. 九沖農研，4. 沖縄農研，5. かずさ DNA 研究所）
P-20：銘柄として流通する外国産小麦の品種構成を推測する技術の開発
◯民本麻梨[1]・門田有希[2]・梅野佑太[3]・田原誠[2]（1. 岡山大農，2. 岡山大院・環境生命科学，3. 日本製粉株式会社）
P-21：NGS を利用した活動型レトロトランスポゾンファミリー同定と連鎖解析への応用
◯藏本晃栄[1]・今井佑美[2,3]・門田有希[2]・岡田吉弘[4]・田淵宏朗[4]・小林晃[4]・謝花治[5]・翁長彰子[5]・田原誠[2]（1. 岡山大農，2. 岡山大院・環境生命科学，3. 鳥取大乾地研，4. 九沖農研，5. 沖縄農研）
P-22：コムギ育種系統「超極早生」における出穂期関連遺伝子の RNA-seq 解析
◯増田春花[1]・山下洋士[1]・西田英隆[1]・水野信之[2]・新田みゆき[2]・藤田雅也[3]・那須田周平[2]・加藤鎌司[1]（1. 岡山大院環境生命, 2. 京都大院農, 3. 農研機構•作物研）
P-23：*LUX/PCL1* genotype strongly associates with heading time in a wheat RIL population derived from “Chogokuwase” and “Kinuiroha”
◯K.M.N. Haque[1], H. Yamashita[1], H. Masuda[1], M. Takeguchi[1], H. Nishida[1], N. Mizuno[2], M. Nitta[2], M. Fujita[3], S. Nasuda[2], K. Kato[1] (1. Grad. Sch. Environ. Life Sci., Okayama U., 2. Grad. Sch. Agr., Kyoto U., 3. NARO/NICS)
P-24：コムギにおける春播性遺伝子 *Vrn-D4* の起源の解明を目指して
◯原田英樹[1]・西田英隆[1]・加藤鎌司[1]（1. 岡山大院環境生命）
P-25：オオムギの 2H 染色体上に見出された Morex 由来早生 QTL のマッピング
◯田部涼太[1]・小堀夏寿美[2]・西田英隆[1]・青木恵美子[3]・加藤鎌司[1]（1. 岡山大院環境生命，2. 岡山大農，3. 農研機構・作物研）
P-26：オオムギの 2H 染色体上に見出された Morex 由来早生 QTL のマッピング（F4 集団における解析）
◯小堀夏寿美[1]・田部涼太[2]・西田英隆[2]・青木恵美子[3]・加藤鎌司[2]（1. 岡山大農，2. 岡山大院環境生命，3. 農研機構・作物研）
P-27：オオムギの光受容体遺伝子 *HvPhyC* が概日時計遺伝子 *Ppd-H1*，*HvGI*，及び *HvPRR73* の発現パターンに及ぼす影響
◯藤見綾夏[1]・谷古健太[1]・西田英隆[2]・加藤鎌司[2]（1. 岡山大農，2. 岡山大学環境生命）
P-28：Exploitation and Utilization of Heat Stress Tolerance Genes in Wheat Wild Species
Awad. A.E. Elbashir*[1,3], Yasir Serag Alnor Gorafi[2,3], June-Sik Kim[2], Hisashi Tsujimoto[2] (1. Graduate School of Agricultural Sciences, Tottori University, 2. Arid Land Research Center, Tottori University, 3. Agricultural Research Corporation, Sudan)

第 7 回中国地域育種談話会の優秀発表賞受賞者

〈四国地区〉

日本育種学会四国談話会報告

2015 年 11 月 26 日（木）・27 日（金）に第 80 回講演会，公開シンポジウム（作物学会四国支部と共催）が愛媛大学農学部において開催された．四国談話会参加者は 15 名，9 題の一般公演があった．

公開シンポジウム（日本作物学会四国支部・日本育種学会四国談話会 共催）

テーマ：「伊予はだか麦の未来を考える」
基調講演：（四国）ハダカ麦の未来を描く
吉岡藤治（農研機構近畿中国四国農業研究センター作物機能開発研究領域）
講演：はだか麦の遺伝学
武田真（岡山大学資源植物科学研究所）
講演：伊予はだか麦の生産現場と課題
辻田泉（愛媛県農林水産業研究所農業開発部）
講演：はだか麦の新たな用途をめざして
垣原登志子（愛媛大学農学部）

一般講演
1. シコクカッコソウの根切片由来不定芽における4倍体個体の出現.
○大橋広明・山岡真梨子・片岡圭子（愛媛大学・農学部）
2. サクラソウ（*Primula sieboldii*）の根切片由来不定芽の倍数性.
○堀内健矢・森徳和聡・片岡圭子・大橋広明（愛媛大学・農学部）
3. Effects of a lateness gene on yield and related traits in *indica* rice.
○ Rana, B.B., M. Yokota, Y. Simizu, T. Kawano, M. Murai (Faculty of Agriculture, Kochi University)
4. Effects of a lateness gene on lodging resistance and related traits in *indica* rice.
○ Rana, B.B.[1], Y. Simizu[1], H. Nakazawa[1], A. Dahal[2], T. Kawano[1], M. Murai[1] (1. Faculty of Agriculture, Kochi University, 2. United Graduate School of Agriculture Sciences, Ehime University)
5. オオムギの穂先の針状突起（“芒”ぼう）の長さを決める遺伝子の特定と解析.
○武田真（岡山大学・資源植物科学研究所）
6. 多角的撮影を用いたイネの葉形質の特徴抽出.
○川田亮太[1]・岡本拓真[1]・朽名夏麿[2,3]・杉田（小西）左江子[1]
（1. 香川大学院・農学部，2. 東京大学院・新領域，3. エルピクセル株式会社）
7. イネの新規難脱粒性突然変異体の解析.
○岡本拓真・杉田（小西）左江子（香川大学・農学部）
8. 弥生紫を用いたイネの新規難脱粒性突然変異体の解析.
多田菜央・○杉田左江子（香川大学・農学部）
9. イチゴ新品種“垣研9k93号”の特性.
○玉置学・吉田豊（垣本商事㈱）

◇本会会報 第17巻4号記事の訂正

幹事会議事録の訂正（2件）
2. 審議事項（1）平成27年度日本育種学会賞について
（正）1. 辻本壽（鳥取大学乾燥地研究センター）「異種遺伝資源によるコムギ育種技術の開発と応用」
（誤）1. 辻本壽（鳥取大学）「異種遺伝資源によるコムギ育種技術の開発と応用」
（正）2. リポキシゲナーゼ欠失ビール大麦育成グループ（サッポロビール株式会社，岡山大学，サスカチュワン大学（カナダ），アデレード大学（オーストラリア））「リポキシゲナーゼ欠失変異を利用した高品質ビール大麦品種の育成：普及から原料調達に至る生産管理体制の国内外での確立」
（誤）2. リポキシゲナーゼ欠失オオムギ育成グループ（サッポロビール（株），岡山大学，サスカチュワン大学，アデレード大学）「リポキシゲナーゼ欠失変異を利用した高品質ビールオオムギ品種の育成」

日本育種学会会員異動（2015.10.21～2016.1.20）

◇**普通会員入会**：藤井壮太（奈良県），髙取由佳（佐賀県）

住所変更等

◇**普通会員**：津釜大侑（北海道），畠山勝徳（岩手県），佐藤洋一郎（東京都），藤戸聡史（三重県）
◇**学生会員**：冨田朝美（沖縄県）